

令和元年6月13日現在

機関番号：11201

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2018

課題番号：26370692

研究課題名(和文) アジア化する語学留学空間と日本人学生への他者の眼差し：「海外経験」の国際比較調査

研究課題名(英文) Japanese students in Asian-dominated study-abroad contexts: what they experience and how they are perceived

研究代表者

小林 葉子 (Kobayashi, Yoko)

岩手大学・人文社会科学部・准教授

研究者番号：00352534

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：東アジア人学生の間では、欧米英語圏に加えアセアン準英語圏での(英語)留学が一般化しているが、まだ研究が進んでいない彼らの経験について調査した。歓迎すべき結果に加え(例：アセアン準英語圏大学付属英語プログラムで働く地元教師たちの高いプロ意識)、次のような課題となる結果も得た：(1)アセアン準英語圏での有意義な滞在経験にも関わらず「ネイティブ英語」志向に変化が見られない；(2)英語留学に関するメディア言説(例：シンガポール人はみなシングリッシュ話者)に対し応用言語学知見が与える影響は限定的である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

アセアン準英語圏における英語研修という選択肢が身近になった今、日本人英語学習者たちの英語観に変化(多様化)の兆しが見られたことは教育的に大きな意味にあると思われる。その一方で、アセアンでの満足すべき研修経験が「脱(欧米ネイティブ・本場の)英語志向」の切り札にはならない可能性が高いという結果が得られた。この結果を踏まえ、海外研修を奨励していく中で、アセアン研修(と欧米英語圏研修との)の位置づけを再検討していく必要性が明らかとなった。

研究成果の概要(英文)：The present research project addresses an overlooked issue of Japanese students' transnational educational mobility across the West and ASEAN region at a time when studying (in) English in more than one context has become increasingly common and popular among East Asian learners of English. In addition to some encouraging results (e.g. ASEAN ESL educators' professional identity), the study provides educational/scholarly implications such as: (1) Japanese students' deep-rooted faith in 'native' 'standard' 'real English' remains intact even after their memorable sojourn experience in the ASEAN; (2) media discourses on English study abroad (e.g. Singaporeans all speaking Singlish) do not necessarily draw upon the existent applied linguistics scholarly knowledge.

研究分野：応用言語学

キーワード：アセアン準英語圏 欧米英語圏 英語ネイティブ志向 言説・イデオロギー

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

- (1) 21世紀に入り、アジアの若者にとって、語学留学の候補地は欧米英語圏だけではなく、近距離で経済的なシンガポールやフィリピンといったアセアン準英語圏も含まれるようになった。しかし、こうした変化を踏まえ、英語圏と準英語圏を日本人英語学習者が行き来していることを想定した研究は国内外で発表されていなかった。
- (2) 数多くの日本人英語学習者たちを受け入れるようになったアセアン(準)英語圏語学学校における調査はフィリピン・セブ島における私立学校に関する調査とシンガポールにおける調査 Kobayashi (2011; 2012)を除き、国内外で発表されていなかった。特に質の高い現地英語教師のみを雇用している大学付属学校での調査は存在していなかった。

2. 研究の目的

- (1) 欧米英語圏語学学校研修を選択する日本人英語学習者が主流だった80年代~90年代を念頭に、21世紀に日本人学生たちが遭遇している(準)英語留学環境を明らかにする。
- (2) アセアン準英語圏と欧米英語圏という2大選択肢がある中で、日本人英語学習者たちは何を基準にして研修先を選んでいるのか調査する。
- (3) 海外語学研修に前向きな「国際学科」系の女子生徒・学生とは対比的に、「おとなしい」と言われる日本人(男子)生徒・学生たちがアセアン・欧米の(準)英語圏でどのような印象を現地スタッフたちに与えているのか調査する。
- (4) アセアン準英語圏への認知度の高まりや現地での研修経験の有無が、白人英語ネイティブ志向が根強い(と言われる)日本人英語学習者にどのような・どの程度の影響を及ぼしているのか調査する。
- (5) 国内のメディア(ビジネス雑誌の「英語学習」特集記事など)や関連言説によって、日本人英語学習者にとって必要とされる「英語力」や「異文化体験」がどのように語られているのか、その言説の中には学術的知見が見られるのかどうか、追究する。

3. 研究の方法

本研究成果は次の4つの研究活動に基づいている：

国内外での文献調査

マレーシアの大学付属ESLセンター(複数校)に所属する教員スタッフを対象に、アンケート調査とインタビュー調査、フィールドワーク

マレーシアでの調査成果を踏まえた理論的研究

オンラインアンケート調査：「アセアン準英語圏(シンガポール・マレーシア・フィリピン)での英語研修経験者100名」と「欧米英語圏(アメリカ、イギリス、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド)での英語研修経験者100名」の研修動機、その他の研修先(アセアンか欧米)での研修経験の有無、興味の程度について調査。

4. 研究成果

(1) 文献調査成果

英語学術文献の中で非常によく使われる Outer-Circle と World English(es)にあたる日本語学術用語「準英語圏」・「世界英語」の浸透度・使用度が低い。

政府関係者、現地・引率スタッフ、参加学生によるプログラム文書(宣伝・回想)の中ではそうした用語が見られない。

「東南アジア英語圏での英語研修の良さ」言語をテキスト分析すると、類似表現が多くみられ、既に言説のイデオロギー化・再生産が起こっていること(例：「多民族」「多文化」「多言語」「多様性」)。

言説の特徴は「Inner-Circle 英語圏での英語研修の良さ」言説とは明らかな違いが見られること(例：「ネイティブ」という用語の欠如)。

(2) マレーシアでの調査成果

「東南アジア英語圏での英語研修の良さ」についての語りが多く聞かれ、その際には欧米 Inner-Circle 英語圏との(無意識的な)比較がなされている場合が多かった[例：文化多様性に敏感な多言語話者のマレーシア人 vs モノリンガル英語話者が多い欧米英語圏；BA/MA(TESL)のマレーシア人教員 vs 数か月で取得可能な CELTA のみの「白人英語ネイティブ」教員][補足：CELTA-Certificate in Teaching English to Speakers of Other Language]。予想以上に、中東・アラブ諸国からの留学生(pre-university students, 大学入学前学生)が多かったが、彼らとの異文化交流が日本人学生たちに与える好影響について、多くの事例や語りが得られた[補足：9/11以降、イスラム教徒の留学生が増加]。

流暢さと正確さにおいて高い英語力をもつ(ことが確認できた)現地教員たちだが、家庭でも英語を使う世帯が多いシンガポールとの違いなどに言及し、彼ら自身は「ネイティブではない」との意識を持っていた。

ただし CELTA 程度の「白人英語ネイティブ」教師とも異なり、4~6年間 TESL 教師になるための専門トレーニングを受けた点を強調・自負する場合が少なくなかった。

欧米英語圏での先行調査と同じく、ただし予想以上に、日本人学生たちの発言力の欠如と

対照的な中東・アラブ系学生たちの積極性について指摘するスタッフが非常に多かった。

(3) マレーシアでの調査成果を踏まえた理論的研究

ASEAN 諸国における正規英語環境の優位性の前提として「英語ネイティブ話者の不在」と「リンガフランカとしての英語使用」などを挙げる Kirkpatrick(2014)の‘lingua franca approach’原則が、本調査現場にどの程度当てはまるのか・当てはまらないのか、という点に焦点を当て、分析を行った。

その結果、研究代表者の調査と‘lingua franca approach’原則との間には合致する点とそうでない点があることが明らかになった。

たとえば、Kirkpatrick(2014)の前提とは異なり、マレーシアの大学付属 ESL センター等ではいまだに「『標準イギリス英語』支持派の影響力」が強く、英語ネイティブ信仰からの脱却が出来ていないことが明らかになった。

この分析結果をふまえ、‘lingua franca approach’原則等の従来研究では見落とされてきた「(英語ノンネイティブ留学生や大学入学準備向けの)非正規の英語教育現場」,「準英語圏 ASEAN 諸国への英語留学動機」,「現地教師のプロ意識と葛藤」などの視点をふまえ、‘lingua franca approach’原則の修正案と今後の研究展望を示した。

(4) オンラインアンケート調査成果

アセアン英語圏経験者(6割が男性、集団研修が8割)の7割が欧米研修も経験しており、経験者の7割が男性であった。つまりアセアン英語圏研修への団体参加者は工学部系学生や企業研修生(男性)が多く、そうした男性たちの所属環境が海外研修を提供(要求)する傾向が強いことが明らかになった。

一方で、欧米圏研修経験者(7割が女性)の中でアセアン研修「未」経験者は7割以上で、アセアン研修の興味の有無は 57:42(%)であることから、欧米圏研修経験者には多少の欧米志向があることが示唆された。

興味深い結果として、アセアン英語圏経験者の間でも「本場の英語」志向が根強いことが確認できた。つまり、アセアン英語圏での研修への前向きな態度や研修体験への満足度とは関係なく、英語学習者として、一度は・次は、欧米英語圏で「本場の英語」に触れ、そついう英語を(英語話者から)学ばなければいけない、と考えている回答者が多く見られた。この結果から、アセアン研修経験が脱欧米優位志向を意味するわけではないことが明らかになった。

その一方で、自由記述データを踏まえ総合的に考察した結果、日本人英語学習者の「(準)英語圏」観が多様化していることが浮き彫りとなった。その要因として、アセアン英語圏による「英語圏」市場を売りにした政治的な教育戦略、短期間・安価に実現可能な海外研修としてアセアン研修を企画する教育機関や団体の急増、アセアン英語圏を「(準)英語圏」だと認識する若者層の増加、そして関係者の多くが共有している「アセアン英語圏」と「欧米英語圏」との住み分け(前者は留学初心者向けで、後者のためのステップ)が挙げられる。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計 5 件)

小林 葉子(2018) ドラマに登場する「英語で生きたい日本人女性たち」(2)『岩手大学人文社会科学部紀要』第103号 33-49頁 <https://iwate-u.repo.nii.ac.jp/> [査読無]

小林 葉子(2018) 小説に登場する「英語(圏)で生きたい日本人女性たち」(1)『岩手大学人文社会科学部紀要』第102号 85-102頁 <https://iwate-u.repo.nii.ac.jp/> [査読無]

Kobayashi, Yoko (2018). East Asian English learners crossing the Outer and Inner Circle boundaries. *World Englishes*, 37(4), 558-569. DOI: 10.1111/weng.12343 [査読有]

Kobayashi, Yoko (2017). ASEAN English teachers as a model for international English learners: Modified teaching principles. *International Journal of Applied Linguistics*, 27(3) 682-696 DOI: 10.1111/ijal.12173 [査読有]

小林 葉子(2015) 人文社会科学系にとっての海外留学-「社会的要請の高い分野」以外の取り組み 『留学交流』(JASSO - 日本学生支援機構) 8(53) 11-20頁

<https://www.jasso.go.jp/ryugaku/related/kouryu/index.html> [査読無]

[学会発表](計 10 件)

Kobayashi, Yoko. 2018. Misrepresentation of World Englishes in Japanese business magazines'

English study articles. Asia TEFL (University of Macau) 6月27日

Kobayashi, Yoko. 2018. NNESTs' professional confidence in the 'standard British English'-model workplace. 52nd Annual International IATEFL Conference (Brighten Centre, UK) 4月10日

Kobayashi, Yoko & Ujitani, Eiko. 2017. Japanese students' willingness to communicate in English as a lingua franca with Asian students in ASEAN contexts. The 15th Asia TEFL International Conference (Royal Ambarrukmo Hotel, Yogyakarta, Indonesia) 7月14日

Kobayashi, Yoko. 2017. ASEAN English teachers as a model for non-western ELF learners: Modified teaching principles. The 10th Anniversary Conference of English as a Lingua Franca (University of Helsinki, Finland) 6月15日

小林 葉子・宇治谷 映子 2016. 大学で実施されているアジアにおける海外研修動向 日本コミュニケーション学会東北支部研究大会(盛岡市アイーナ) 11月19日

Kobayashi, Yoko & Onaka, Natsumi. 2016. Japanese college students' study experience in ASEAN nations: Possibilities and new pathways. The 51st RELC International Seminar (SEAMEO Regional Language Centre, Singapore). 3月15日

Kobayashi, Yoko. 2015. Outer-Circle ASEAN nations as study-abroad destinations for Expanding-Circle students. TESOL International Association Regional Conference (National Institute of Education, Singapore) 12月5日

小林 葉子 2015. 海外語学体験からの脱却: 教養系分野による模索と課題 日本国際文化学会(多摩大学) 7月4日

Kobayashi, Yoko. 2015. The potentiality of Outer-Circle English in Expanding-Circle nations' global ELT policy. The 50th RELC International Seminar (SEAMEO Regional Language Centre, Singapore) 3月18日

Kobayashi, Yoko. 2014. Outer-circle nations as an ideal place for expanding-circle students to study (in) English: The era of globalization beyond Three Circles Model. The 20 Annual Conference of the International Association for World Englishes (IAWE) (Amity University, Delhi-NCR, India) 12月18日

[図書](計 1 件)

Kobayashi, Yoko (2018). *The Evolution of English Language Learners in Japan: Crossing Japan, the West, and South East Asia*. London and New York: Routledge. DOI: 10.4324/9781315208749

[その他]

ホームページ等

<https://researchmap.jp/read0083744>

https://www.researchgate.net/profile/Yoko_Kobayashi8